

つてはいけませんよ、と注意しておきます。それがどの程度まもられるか、又どのやうな時にその約束が守られ難いか等を研究して指導していきます。

もうちき遠足をするとか、いつ何日に、お菓子をあげる。などといふ話は、きつと子供たちにとつておしゃべりしたい内容でせう。どんな内容でも、「ししゃべつてはいけない」といはれたら我慢してししゃべらないやうに子供たちを育てたいものです。これは國家的立場から大切なことです。

第三に防空の實際指導です。いつ空襲があるかわからない。といふことは、いつにもいはれてゐますのに、子供たちはその時の處置を殆んど正確に知つてゐません。私は先日近所にすむ幼稚園へ行つてゐるお子さん方に、

(イ)外にひとりである時、空襲警報になつたらどうするの？

(ロ)「お友達のところへ行つてゐる時、警戒警報になつたらどうするの？」

ときいてみましたが、兩方ともに正しい答をしたお子さんは六七人の中、一人もありませんでした。このお子さん方は、四箇

所のちがつた幼稚園のお子さんで、その一人々々に、お友だちのゐないところでできたのでしたが誰もいゝ答をしてくれなかつたのです。

子供たちは、空襲警報と警戒警報との區別をはつきり知らないのです、イの問にも、ロの問にも、「すぐ倒れてしまふ」とか「すぐ防空壕へはいる」と答へたり、又兩方の答へに對して、「うちへかへること出来るわ」とすましてゐたりします。

こんな時ですから、あんまり遠いところのお友だちへは、あそびにいかないやうにするのも必要ですが、警報をよくきゝわけて、子供ながらも、どうすべきだといふこ

こゝろのしつけ

いつもびつくりさせられるのは、幼稚園や保育所に行つて、そこの子供たちの言葉が、非常にみだれてゐることです。

言葉は性格をつくり、言葉は生活を導くものであることを思ふにつけ、幼児期の子

と位は、よくおぼえさしておいてほしいと思ひます。勿論これは、まづお母さんのなすべきことなのですが、うつかりしてゐるお母さん方も多いやうですから幼稚園の先生の方でも、その時にあたつてまごつかないやうに指導していただきたいと思ひます。

以上、いろ／＼とやつかないな要求ばかり出して申譯ないでのごさいます、子供たちの將來のため、又十年後二十年後の大日本のために幼児の教育の中樞となつていただくたく敢へて御願ひする次第でござい

金丸光

供たちには、あらゆる躰のうちでも、特に、正しい言葉を躰けて行くことに力をつくさねばなりません。

× 母は、絶えざる愛情と根氣づよい努力で、

一つ一つと新しい言葉を、わが子に覚えさせ、悪い言葉から、みだれた言葉から子供を守るため、心を砕くのです。

よい家庭——それは、絶えず正しい、美しい言葉が、音楽のやうに流れてゐる環境をいふのです。

子供を幼稚園や保育所に出したために、子供が急に言葉が悪くなり、粗野な下品な言葉のかす／＼を口にするやうになつたとしたら、どんなに失望し、落膽するでせう。

「うちの子は、幼稚園に行くやうになつてから、とても言葉が悪くなりました」

この言葉はよくきく言葉であり、その言葉には、自分の子供だけをよくしようとする個人主義のほびが感じられるけれど、さうしたことをきくのは、保母には何よりかなしいことです。

×

「幼児は満五歳にして、學齡に達す」と、大日本文教報國會は、満五歳入學を協議しました。これについて、愛育會の山下俊郎氏は、「満五歳に達すれば幼児は既に共同生活に耐ふ」と答へてゐられます。

學徒は銃をとつて戦野に立ち、國民學校

高學年兒童は、一年の三分の一の日數を生産勤務に従事してゐる現在、國家百年の大計を思入は思ふほど、さし迫つた今日只今の戦局に勝ち抜かねばなりません。保育も亦、戦力増強の保育であり、勝ち抜くための保育でなければなりません。

教育の戦時非常措置として、教育期間の短縮が叫ばれてゐる時、私たちは一日も早く幼児を、しつかりした魂と體の所有者に育て上げねばなりません。

満五歳にして既に學齡に達す。かうした叫びがきかれる時、幼児をいつまでも甘やかし、愛玩の對象として扱ひ、従つて言葉の弊の點でも、言葉の修練といふことに意を用ひず、舌のよく廻らぬ頃に覺えた可愛らしい言葉をそのまま、六つ位の子供に使用させてゐるのもあります。

卑近な例ですが、保母自身「落ちた」といふ正しい言葉を「落つちちた」といふやうなのはまだいゝ方で、「いらつしやい」といふのを、「いらつちやい」などといふ保母があるのには、啞然とすることがあります。

かうした保母のうけもつ子供には、大抵、長上に對する敬語の使用が躰けられてゐな

いやうです。先生に對する言葉づかひも、そんないで、同輩に對するやうに

「先生、こつちへお出でよ」

といつたり、それに對して、保母も

「今行くわよ。ちよつと待つて、ね」

といつた調子です。

一體今迄の社會一般が、長幼の序をみだし、尊敬すべきものを尊敬しないといつた、非常に悪い風潮をもつてゐたと思ひます。尊敬のない所に、指導や教化の實が上る筈はありませぬ。

軍隊が何よりも先づ要求してゐる絶対隨順の精神は、幼児期に於ては保母を師として絶対隨順することから始まるのです。その意味から、保母は、心に誇りと自覺をもち、自らの職に、權威をもつために、絶えざる修養と努力が必要とす。

×

こゝでちよつと、敬語について思ひ出すのは、幼稚園に於ける叮嚀語の過剰といふことです。やたらにおの字をつけて、おピアノ、おかばん、お下駄など、おの字さへつけばいい、やうに思つてゐるやうですが、かうした言葉のもつ甘つちよろさ

は、自由主義家庭の奥様のさあます言葉と好一對です。

×

敬語の躰に次いで、明るい、力強い言葉、迫力のある言葉の錬成といふことを私はほしいのです。

発音を正しく、明瞭に。して、力強く言葉に繰らせることは、単に言葉だけでなく、その性格を鍛へます。ぐづ／＼した不明瞭な言葉を使つてゐると、性質までまき／＼しない子になります。

昔、武士の子を使ひに出す時には、その使ひの言葉の文句を母が復唱させ、一句々々母が嬌め直し、それによつてその子の言葉だけでなくその氣質を鍛へてゐました。

今では、軍隊ばかりでなく、既に國民學校でも、所によつては、歸る時など「何の某歸ります」といひ、仕事を命ぜられた時でも、復命復唱の訓練がなされてゐます。はげしい氣魄と、明るい日本の性格とを練り上げ、いぢけた卑屈な根性を叩きつぶすには、かうした方法も必要です。たゞそれを幼児の場合どういふ風にして効果あらしめるかが保育者への課題となります。だがこゝで

注意すべきは、この「精神」を忘れたら、その表面にあらはれる「形式」だけにとらはれて、説教じみた大人くさい言葉を口にし、身につかない形式的動作をする妙に子供らしさを失つた、夢をもたない、素朴な野性の美しさをもたない子供に育て上げてはならないことです。

×

それから、面白いことには、言葉の躰の行きとどかない所では、子供たちが實に冗舌で、のべつまくなしにしゃべり散らし、雑音と喧嘩のおそるべき集團となつてゐるこゝです。

言葉の躰に附隨して、沈黙の躰も幼時から必要です。

私はいつか岸邊福雄先生の幼稚園を見せたいといふことがありますが、そこで、今まで見たほかの幼稚園とちがつたところを見せて貰つたことがあります。それは、短い間でしたけれど、子供たちがびたりと鳴りなしぶめ、しんとしづまつた沈黙の一時、目をつむれば針の落ちる音ひとつしな静寂さが幼児たちの上を流れ、その沈黙静寂のたのしさに子供たちがびたりと

様な思ひを感じさせられたことがあります。

保母の手が少く、とますれば、一人の保母で二人も三人もの役目をしなければならなくなる現状では、とかく子供たちが、喧嘩々たる喧嘩集團となつてゐる所もありますが、さうした場合、保母のすぐれた保育技術が必要になつてきます。

×

最後に、これは注意ぶかい保育者ならみんな氣がついてゐられるでせうが、それは、言葉の躰の上に於ける繪本の犯罪といふこゝです。繪本の文は、子供たちの日常生活を指導する模範的の言葉であつてほしいと思ひます。そして保育者はその繪本に使用された言葉を、正しい發音で、ぐん／＼強力に指導してゆくことが必要です。その意味で、國民學校の教科書は實によく出来てゐます。保育者も、もう一度、國民學校の最近の教科書を、この意味から見直してほしいと思ひます。